成田 あれ・これ

令和６年11月号　第353号

発行：成田市観光協会
成田市花崎町８３９
０４７６－２４－３１９８

成田市制施行７０周年記念

第２５回　成田山公園紅葉まつり

秋の深まりとともに、紅葉が鮮やかに色づく季節となりました。成田山公園に涼しい秋風が吹く頃になると公園はまるで錦絵のような日本庭園に変貌します。

例年11月中旬から12月上旬にかけ、モミジ、クヌギ、ナラ、イチョウなど約250本の木々が赤や黄色に色づきます。池の水面に映る紅葉は優雅で美しく、足を進める度に変化する風景を楽しむことができます。

紅葉まつりでは成田山公園内竜智の池に浮かぶ浮御堂にて演奏会を、成田山書道美術館隣の茶室赤松庵（せきしょうあん）では茶会を開催します。

自然が創り出した、刻一刻と移り変わる美しい錦絵と共に、秋のひと時をお楽しみ下さい。

【会期】11月9日（土）～11月24日（日）期間中の土・日・祝日に演奏会やお茶会を開催します。

	演奏会　時間：11時～・13時30分～ 場所：成田山公園内竜智の池 浮御堂（雨天時は成田山書道美術館）	**お茶会**　時間：10時～15時 （先着順、定員に達し次第受付終了） 場所：成田山公園内茶室　赤松庵
11月　9日（土）	箏　清翔会、尺八　竹樹会	十和の会
11月10日（日）	二胡　ワン　シャオフォン	五井野　宗風　社中
11月16日（土）	二胡　ワン　シャオフォン	矢澤　宗文　社中
11月17日（日）	二胡　ワン　シャオフォン	静の会
11月23日（土・祝）	箏　清翔会、尺八　竹樹会	熊谷　宗光　社中
11月24日（日）	箏　清翔会、尺八　竹樹会	阿地　宗玲　社中

【お問合せ先】（一社）成田市観光協会　TEL　0476－22－2102

企画展示 「クラフト展14―手仕事いろいろ―」
「世界と日本の大昆虫展＆里山の生きもの展」

【期日】11月16日（土）・17日（日）
【場所】成田山書道美術館内（2日間に限り入館無料）
【お問合せ先】成田山書道美術館　TEL　0476－24－0774

11月の予定

千葉県立房総のむら　文化の日・日本遺産北総四都市デー

文化の日にふさわしい伝統の技や伝統芸能等の実演を行います。また、日本遺産「北総四都市江戸紀行」のガイダンス施設として、佐倉市・成田市・香取市・銚子市の伝統文化、観光、物産等を紹介します。文化の日のため入場無料。

【日　時】 **11月3日（日・祝） 9時～16時30分**

【休館日】 月曜日（月曜日が祝・休日の場合は開館し、翌日休館）

【お問合せ先】 千葉県立房総のむら　TEL　0476－95－3333

NARITA 花火大会 in 印旛沼

無数の打上花火が、秋の夜空を美しく彩ります。皆様も一緒に楽しみながら参加できる花火大会です。音楽と光との演出の素晴らしさで作り出される感動のショーをご堪能ください。

【日　時】11月2日（土） 18時 【場　所】ニュータウンスポーツ広場（成田市台方）

JR 成田駅西口・成田スカイアクセス成田湯川駅・京成電鉄公津の杜駅より、臨時バスを運行する予定です。

※会場周辺には駐車場がありませんので公共交通機関でご来場ください。

【お問合せ先】 NARITA 花火大会実行委員会　TEL　0476－27－4779（土日祝除く 10 時～18 時）

滑河観音　木まち

観音様のご縁日。大護摩修行やお稚児の練供養が行われます。

「木まち」の「まち」とは、“賑やかなところ、市（いち）”を表します。もともとは馬の取り引きをする馬市でしたが、現在では植木市として賑わいを見せています。

【日　時】 **11月18日（月）**【お問合せ先】 龍正院（滑河観音） TEL　0476－96－0217

成田市制施行70周年記念　第44回成田市産業まつり

成田市公設地方卸売市場を会場に第44回産業まつりを開催します。会場内では、地元の商工業製品、市内の農家の皆さまによって大切に育てられた農産物の展示や、新鮮な農水産物販売や飲食物等の出店があります。また、クイズラリー、体験コーナーなど大人から子供まで楽しめるイベントも開催されます。

当日は会場である卸売市場の仲卸業者も営業しますので、お買い物をお楽しみいただけます。

駐車場は、成田市場または臨時駐車場「リッチーブラザーズ（〒287-0242　成田市多良貝 245-2771）」。シャトルバス2台による輸送となります。

※雨天時は、イベント内容が変更または一部中止となることがございます。

【日　時】 **11月16日（土）・17日（日） 8時～14時**

【場　所】 成田市公設地方卸売市場（成田市天神峰80番地1）

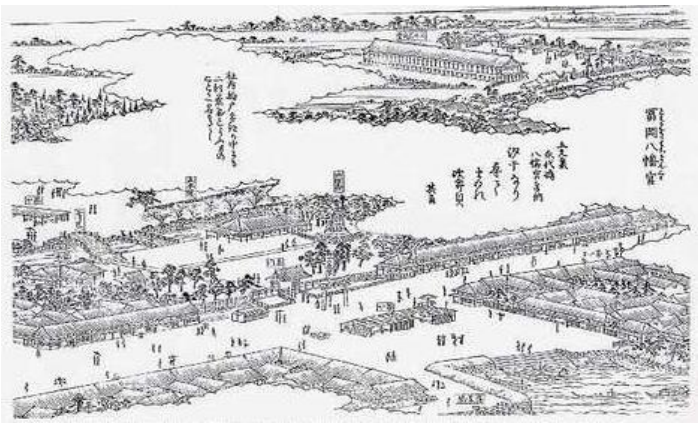
【お問合せ先】 成田市役所　経済部　商工振興企業立地課　TEL　0476－20－1622

成田山門前町を行く～その②

成田山新勝寺の門前町は、成田名物うなぎ料理の店や土産物店が軒を連ね、今も昔も、多くの参詣客で賑わっています。成田山が観光地として人気を集めるようになったのは、江戸時代中期以降のことでした。

成田村の領主であった佐倉藩 稲葉正道の篤い帰依を受け、成田山は寺領の拡大と寺格の向上を進め、寺勢は拡大していきました。元禄 14 年（1701 年）には、本堂（現光明堂）が完成し、多くのご信徒さまが参詣に訪れました。

元禄期は江戸幕府開府から 100 年を経て、江戸の都市人口も 100 万人に達しようかという頃で、経済の高度成長がピークに達した時期であり、まさにバブル時代！好景気を追い風に元禄文化が花開いた時代でもありました。こうした活発な経済情勢の中、江戸の街には御開帳ブームが訪れ、元禄 16 年（1703 年）4 月に、成田山ではじめての江戸出開帳が実施されました。



御開帳とは、寺社が所蔵している秘仏や秘宝を一般公開することです。普段は見ることが出来ない霊験あらたかな秘仏と参詣者の間に大変ありがたい結縁が生まれる御開帳は、現在でも定期的に寺社で行われていますが、江戸時代にも大変な人出で賑わいを見せました。

その神仏を所持する寺社で行う「居開帳」の他、有名な寺院などが地方からはるばる出張してくる「出開帳」がありました。江戸っ子達はご利益にあずかろうと、御開帳のある日は寺社に参詣して、熱心にお詣りをしました。

江戸出開帳のなかでも、ずば抜けて多くの参詣客を集めたのが、京都嵯峨清涼寺の釈迦如来、善光寺の阿弥陀如来、身延山久遠寺の祖師像、成田山新勝寺の不動明王の四つで、江戸出開帳四天王と呼ばれていました。（次回に続く）

イベント等の関連情報については、FEEL 成田（https://www.nrtk.jp）をご覧下さい。